

「第3回 赤堀川水辺再生検討会」が開催されました！！

【開催概要】

開催日時：平成22年11月8日（月） 9：30～11：30

開催場所：桶川工業団地協同組合 会議室

出席者：地元自治会の代表、工業団地の代表、県民提案者、桶川市、埼玉県 ほか

主な内容： アンケート調査の結果報告
 具体的な整備メニューの検討
 維持管理計画の検討
 今後の検討スケジュールについて



第3回検討会開催の様子

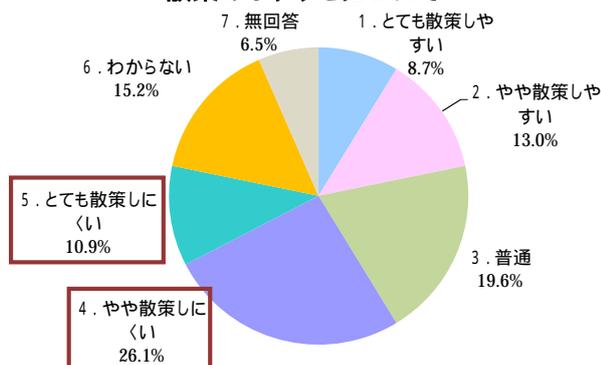
【第3回検討会の概要】

アンケート調査の結果報告（抜粋）

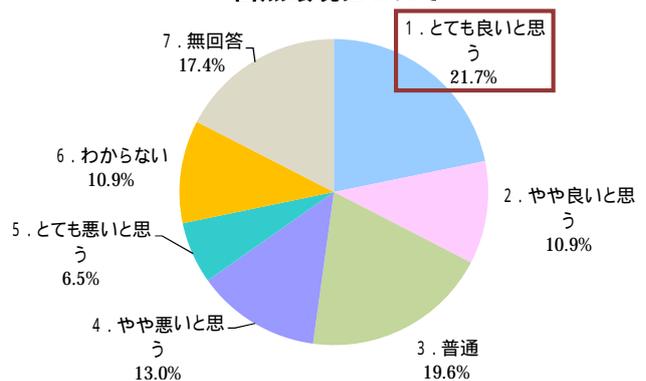
「水辺再生100プラン 赤堀川水辺再生に向けたアンケート調査」について、最終的な調査結果の報告を行いました。（配布総数：85件、回収数：46件、回収率：54.1%）

赤堀川の現状について

< 散策のしやすさについて >

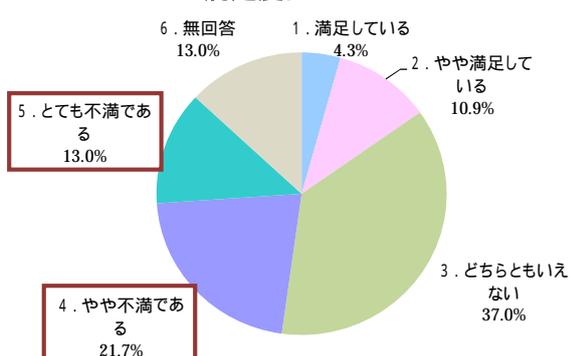


< 自然環境について >

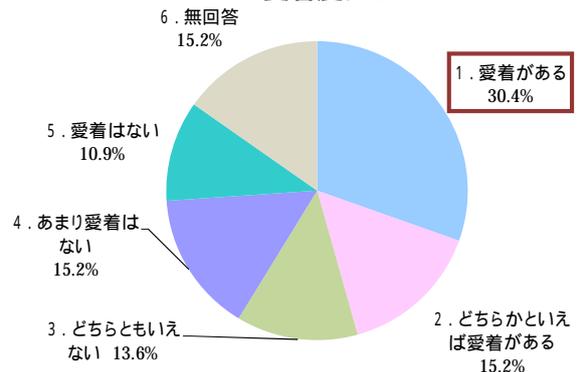


赤堀川の満足度・愛着について

< 満足度について >

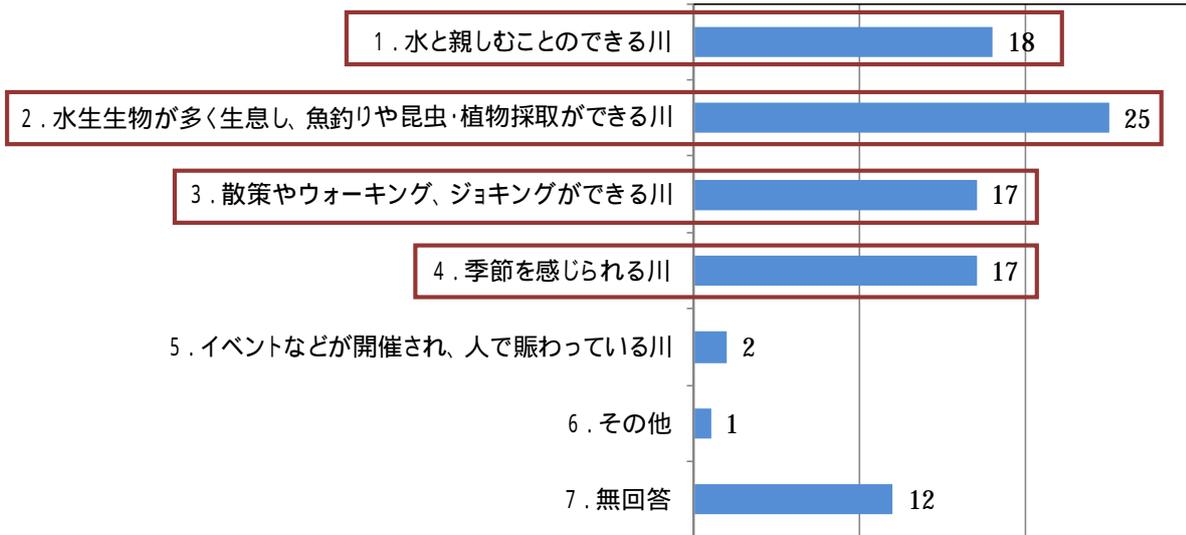


< 愛着度について >

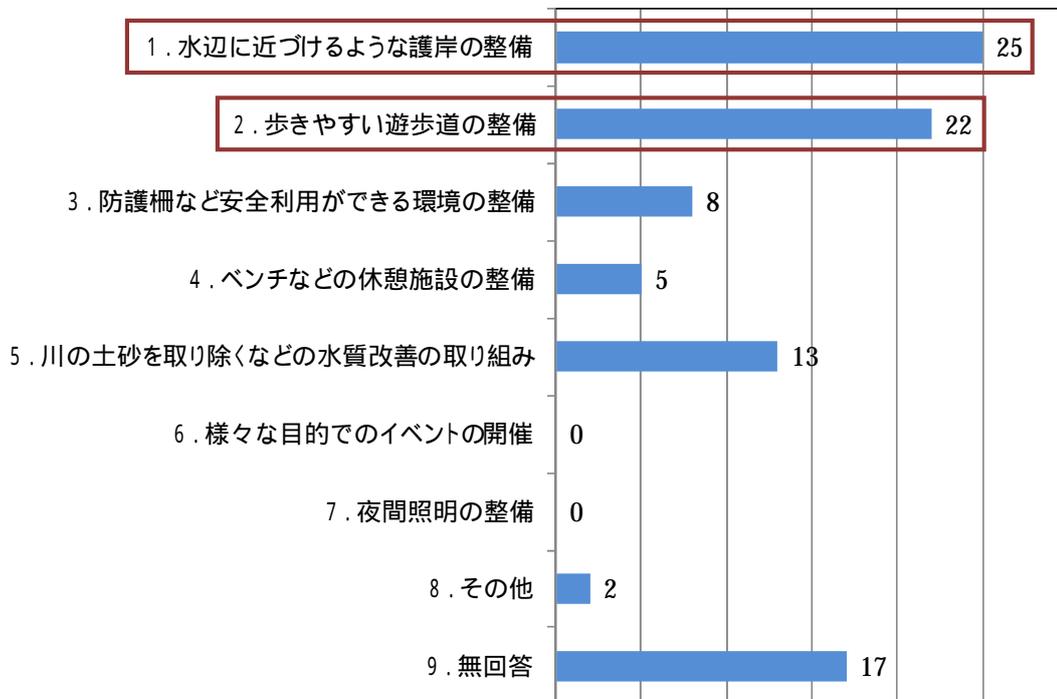


赤堀川の将来像について

< 将来像について >

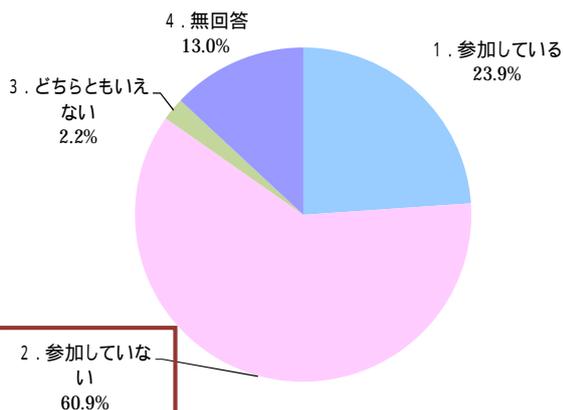


< 必要な取組みについて >

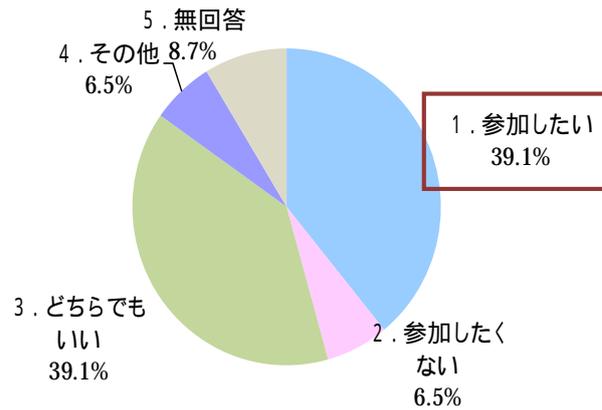


赤堀川の美化活動について

< 美化活動の取組状況 >



< 美化活動への参加意向 >



具体的な整備メニューの検討

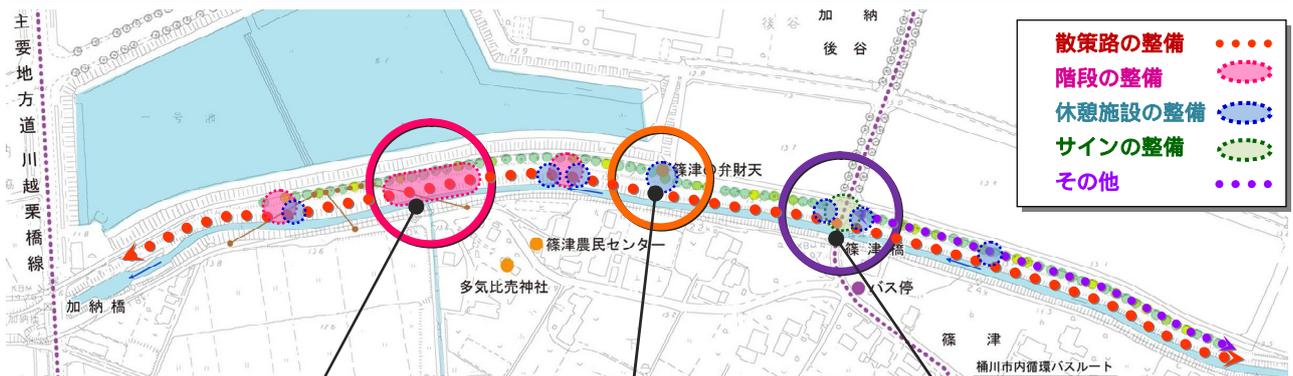
赤堀川の整備コンセプトや諸施設の配置イメージの確認を行った後、「散策路の整備」、「階段の整備」、「休憩施設の整備/ガードレールの整備」、「サインの整備」それぞれの具体的な整備メニューの検討を行いました。

《赤堀川の整備コンセプトと諸施設の配置イメージ(案)》

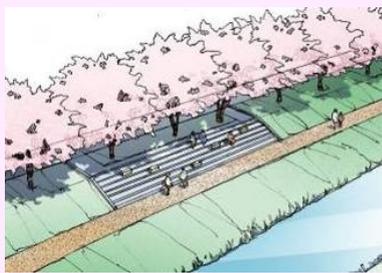
東部工業団地～加納橋にかけての水辺空間を、篠津・赤堀川の歴史・文化を後世まで受け継ぐ地域財産として、自然環境の保全を前提に水辺の安らぎ・賑わい空間の整備を図ります。

<赤堀川の水辺再生の整備コンセプト>

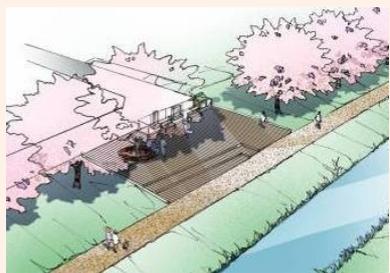
安らぎと賑わいの空間創出 ～自然環境の保全を前提とした河川環境の整備～



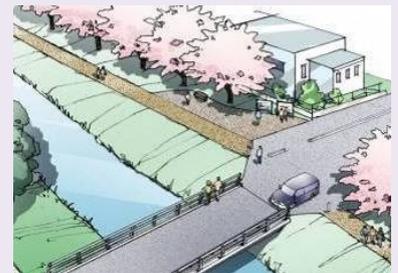
赤堀川の眺望ポイントの整備



赤堀川の活動拠点の整備



赤堀川のアクセスポイントの整備



《諸施設の具体的な整備計画(案)》

散策路の整備

計画対象区域全域(右岸側)において、既存の自然環境や景観に配慮し、赤堀川の利用者が安全に楽しく歩行できる散策路の整備を行います。

【整備概要】

- ・幅員は、現状の幅員や利用状況を考慮し、2.5mを基本とします。
- ・現在の自然環境・景観に調和するクレイ(土)系舗装とします。
- ・舗装面の照り返しや温度上昇が抑制できる舗装材料とします。



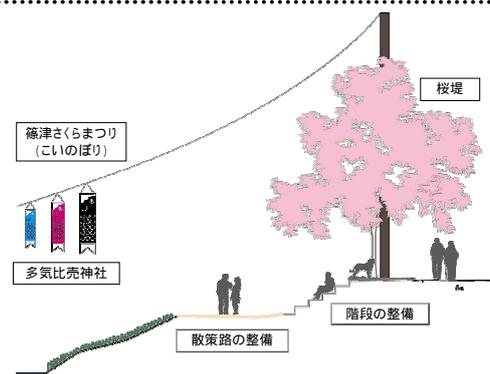
階段の整備

桜堤や多気比売神社を見渡せる眺望のポイントに、皆が集い、休めるような広幅員の階段の整備を行います。(1)

適正な距離間隔のもと、河川敷の上下段の移動性の向上を図るために、既存の景観に配慮した階段の整備を行います。(2)

【整備概要】

- ・既存の自然環境と調和し、耐候性のある材質とします。
- ・(1)については、20mのベンチ式階段を設置します。
- ・(2)については、幅員2.0mの階段施設を設置します。
- ・階段施設の設置間隔は、約100mに1箇所とします。



休憩施設の整備 / ガードレールの整備

赤堀川に訪れた人が気軽に憩い、休憩できるような施設の整備(自然環境に配慮した)を、散策路の脇に行います。

篠津橋上流部における赤堀川へのアクセス性の向上や周辺の自然環境と調和した空間を創出するために、ガードレールの整備を行います。

【整備概要】

- ・篠津橋を基点として、約 100m に 1 箇所の設置とします。
- ・既存の自然環境と調和し、耐候性のあるコンクリート擬木のベンチを設置します。
- ・階段の整備の整備にあわせ、休憩施設を配置します。
- ・篠津橋上流部について、休憩施設の設置箇所でのガードレールの部分的な切断を行います。
- ・ガードレールの着色(茶色)を行い、現在の自然環境・景観に調和した整備を行います。



コンクリート擬木



ガードレール整備イメージ

サインの整備

赤堀川に訪れた人々に、赤堀川を知ってもらうとともに、自然環境保護の啓発や環境学習を促すためのサイン施設の整備を行います。

【整備概要】

- ・現在の自然環境・景観に調和し、耐候性のあるプラスチック擬木のサインを整備します。



プラスチック擬木

〈主な意見〉

散策路の整備について

- ・散策路については縁石等を設けず、フラットな整備が望ましい。 等

階段の整備について

- ・水質や水位、時期等の問題から、水に入って親しむような利用は考えにくいいため、散策路より下の部分については整備を行わない方が良い。 等

休憩施設の整備 / ガードレールの整備について

- ・ガードレールを茶色に着色することにより、河川環境との調和が図れると思う。 等

サインの整備について

- ・いたずら書きを防止できるような性質を持つ素材・製品が望ましい。 等

維持管理計画の検討

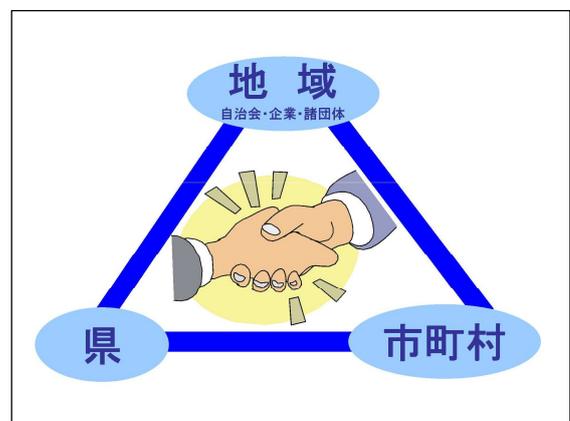
維持管理の必要性・取組み方について検討しました。

《維持管理の必要性》

整備環境の継続的な利用の促進、機能・景観の保持
河川へ関心・愛着度の向上、地域コミュニティの醸成 等

《維持管理の取組み方》

今後、河川環境の維持管理を行っていく上では、地域と行政(埼玉県・桶川市)による良好な協力関係(パートナーシップ)のもと、互いの役割分担を明確にし、効率的・効果的な維持管理活動を行っていくことが望まれます。



今後の検討スケジュールについて

第4回検討会では、第3回検討会での協議内容を踏まえ、「河川整備計画・整備メニュー」と「維持管理計画」について、具体的に検討していきます。(12月初旬～中旬の開催を予定)